

自分の身を守る行動を

校長 吉田 美佳

10月7日(木)22時41分頃、埼玉県と東京都で最大震度5強を観測する地震がありました。大和市は震度4でしたが、皆さまは、この地震の時にどのような行動をとられたのでしょうか。夜ということで、すでに就寝していたお子様もいたことと思います。

幸い我が家では大きな被害はありませんでしたが、娘が帰宅困難者になりました。その夜、地震により首都圏の鉄道各線は一斉に運転を見合わせました。娘は、帰宅途中で電車の中で揺れを感じ、電車は徐々に徐行し、地震の揺れがおさまった後も2時間近く駅と駅の間で停車をしたまま車内に閉じ込められてしまいました。車内アナウンスも「点検中のためしばらくお待ちください。」というだけで、「いつ帰れるのか。」と不安を感じたそうです。結局運転は再開せず、線路上で降ろされてひとつ前の駅に向かってぞろぞろと並んで線路の上を歩き、ようやく到着した駅ではタクシー待ちで行列を作っていて、途方に暮れたと言っています。幸いスマートフォンのLINEや電話は機能していたため、父親が車で迎えに行くことになり、帰着できたのは翌日8日の朝3時半でした。ニュースによると、この地震による遅れや運休により、新幹線や在来線16路線で約36万8千人に影響が出たそうです。また翌日の朝のラッシュ時間帯でも、運転本数の削減や駅の入場制限のために、ホームに人があふれているようすが映っていました。

「都市基盤の脆弱(ぜいじゃく)さを露呈した」という指摘もありますが、災害は時と場所を選ばず、かつ、その種類も状況も様々で、災害のすべてに対応した対策や訓練を実施することは難しいのが現状です。本校では、年に2回の火災と地震の避難訓練を実施しています。今年度の1学期の避難訓練では、本校の重点目標「いつも『何のため』を考え、自ら行動しようとする」ことの大切さをお話しし、日頃から自分で判断して行動できるようにするために避難訓練を行うのだということを伝えました。今回の地震を通して、子どもたちが自分の命を自分で守る行動がとれるようにすることが重要だと感じました。そこで、授業中だけでなく、登下校中に地震が起きたときの対応も改めて確認しました。また、後期に防災教育も実施する予定です。ご家庭でも、休日や夜間に地震が発生したことを想定し、危険箇所・避難場所についてなどを、お子さまと一緒に考えていただきたいと思います。

★★☆☆ 地震があった時の対応について ☆☆☆★

学校では震度5以上の地震の場合、児童の預かり保護を行います。保護者の方は安全を確認し、慌てずにお迎えにきてください。

また、登下校中に地震があった場合、

- ①学校に近い場合は学校に来る、家が近い場合は帰宅する。
- ②どちらか迷うときは、登校中は学校へ来る、下校中は家に向かう。
- ③家に大人がいないとわかっている場合は学校に来る。

ということを基本として、自分の安全を第一に行動するよう子どもたちに指導しました。ご家庭でもいろいろな場面を想定し、お子さんと話をしておいてください。

